



今日の表紙 川俣の元服式



1月23日(土)、川俣集会所で国の重要無形民俗文化財に指定されている「川俣の元服式」が行われました。元服式は室町時代から行われている伝統行事で、川俣地区出身の数え年二十歳になる男子を対象に行われます。血縁関係の遠い親族から後見人の夫婦を選び、親分・子分の関係を結ぶことで一人前の成人と認められます。

4年ぶりの開催となった今年は、大学1年生の山口育久さんと、高校3年生の山口優太郎さんが式に臨みました。式を終えた山口育久さんは「緊張しましたが無事終わってほっとしました」、山口優太郎さんは「親分のように立派な大人になりたいです」と、それぞれ語ってくれました。

式の終了後には、川俣の伝統芸能の三番叟と恵比寿大黒舞が披露されました。



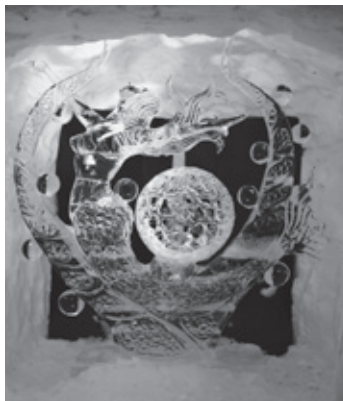
日光ブランド食分野 認定式

1月21日(木)、道の駅「日光」日光街道ニコニコ本陣で、日光ブランド食分野の認定式を行いました。市内の水や地酒、郷土料理や甘味など75品目を新たに認定し、製造者らに認定証を授与しました。市は今後も、観光客の満足度の向上と地域経済の活性化のため、地域資源の認定を進めていきます。



雪窟の中の氷彫刻

1月30日(土)から、奥日光湯元温泉で、第10回全日本氷彫刻奥日光大会の作品展示が始まりました。各世界大会で活躍する平田浩一さんを始め、有名ホテルの調理人など全国から選りすぐられた彫刻士10名が、前日29日(金)から夜通しで制作。数種類のノミやチェーンソーなどの道具を駆使し、動物



や神話などをモチーフにした2mを超える作品を完成させました。東京から訪れた本多好実さん、雅恵さんは「奥日光が好きで年に3、4回来ています。イルミネーションがあると聞き、温泉で温まってから来ました。夕暮れと合わせて、とてもきれいですね」と精巧な氷彫刻に感動した様子でした。作品はかまくらの中に展示され、氷が溶けるまでの約2週間、訪れた人々の目を楽しませました。



鬼怒川温泉鬼まつり

2月6日(土)・7日(日)、鬼怒川温泉駅前広場で第16回鬼まつりが開催されました。勇ましい龍王太鼓がスタートを飾り、キヌちゃん・カワちゃん子どもを対象にお菓子のガラマキを行いました。ステージでは、ホテル・旅館の女将などがガラマキを行い、宿泊券などが当たる大抽選会で盛り上がりしました。また、地元食材を生かした湯波入り「下野けんちん汁」が振舞われ、長蛇の列ができました。



日光酒まつりは、市内の酒蔵の紹介と新たな人と人とのつながりを目的に開催され、市内外から2日間で52名が参加しました。「新酒の季節、美味しい肴と素敵なひとときを」をキャッチフレーズに、1時間ほどの酒蔵見学



をした後、地元の魚屋、魚仲が特別に用意した肴で、飲み比べを楽しみながら、酒米「山田錦」を味わいました。ご主人と参加した、大島暁子さん(囃)は、「最近、日本酒を飲むようになりました。飲み比べると違いも分かって、とてもおいしいです。酒米も、噛むと旨味が出て来てとてもおいしいです。」と話してくれました。



湯西川温泉の冬の風物詩「湯西川温泉かまくら祭」は、暖冬の影響による雪不足のため開催が1週間延期となり、1月30日(土)から平家の里をメイン会場に始まりました。このイベントは、「日本夜景遺産」に認定されており、夜は河川敷一面に並ぶミニかまくらにろうそくが灯され、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。日中はス



ノーシューや、大きなかまくらの中でバーベキューなど、さまざまな雪遊び体験ができます。那須塩原市から訪れた吉原さんと君島さんは、「一つ一つのろうそくが手作業で灯されていて、人の温かみを感じられました。とても寒いけど心温まりますね」と話してくれました。湯西川温泉かまくら祭は3月6日(日)まで開催されています。

成人式



春のような穏やかな陽気に恵まれた1月10日(日)、市内5カ所で、成人式が開催されました。

取材で訪れた栗山地域の成人式には、12名の新成人が出席しました。教育長から一人一人に「成人証書」が手渡されると、参加者たちは一様に緊張した面持ちで受け取っていました。

成人証書授与後に、新成人を代表して高山詩歩さんが「今後は責任と自覚ある行動が一層求められることを実感し、すばらしい人間になれるように精進していきます。また、ここまで私たちを育ててくれた両親や周囲の方々にお礼を申し上げます」とあいさつをしました。

なお、この日市内全体で合計718名の新成人が成人式に出席しました。

